

春秋会

ニュースレター

2024.3



今月の予定

・ 3月1日 | 8時半～

若手会

追いコン

・ 3月19日 | 2時～

第12回幹事会

・ 3月21日 | 8時～

(スープ作りから参加の
場合は17時～)

親睦委員会

ラーメン作り企画

・ 3月26日 | 8時～

3月総会

気が付けばあっという間に3月です。寒暖の差が激しい今日この頃ですが、体調に留意して、年度末を乗り切りましょう。今月も盛りだくさんの内容でニュースレターをお届けします。

いざ、最高裁へ！！

～生活保護基準引下げ違法訴訟大阪弁護団、 第1回最高裁要請行動の記録～

西田陽子（68期）

1 はじめに

生活保護基準引下げ違法訴訟大阪弁護団（以下、「生保大阪弁護団」）の団員の、弁護士西田陽子と申します。生保大阪弁護団には、2022年の春頃に加わり、控訴審の中盤から上告審にかけて活動しています。春秋会には昨年4月に入会したばかりです。

私は、2024年2月2日、生保大阪弁護団の一員として、最高裁判所に対して、公正妥当な判決を書くようお願いする「要請行動」を初めて行ったので、ご報告したいと思います。少しでも、生保大阪弁護団の活動にご興味を持っていただければ幸いです。そして、まだ、要請行動のご経験のない先生方のご参考になれば嬉しいです。なお、要請行動のやり方については、泉南アスベスト弁護団の先生方に、多数の有益なアドバイスをいただきました。厚く御礼申し上げます。

2 これまでの裁判闘争について（簡単に）

生保大阪弁護団・原告団は、今から9年以上前の、2014年12月19日に、2013年の生活保護基準の大幅な引下げが違憲・違法なものであるとして、大阪地裁に提訴しました。全国で行われている同様の裁判は、生活保護は「いのちのとりで」であるとの認識のもと、「いのちのとりで裁判全国アクション」と呼ばれています。¹

2020年6月25日の名古屋地裁での完全敗訴判決の後、2021年2月22日に、大阪地裁で、引下げの違法を認める、歴史的な勝訴判決が言い渡されました。その後は地裁レベルで敗訴判決が長く続きましたが、2022年5月25日の熊本地裁判決、2022年7月8日の東京地裁判決で相次いで勝訴してからは潮目が変わり、各地の地裁で多数の勝訴判決が言い渡されました。

ところが、2023年4月14日、大阪高裁は、厚労大臣の裁量を非常に広く認める、逆転敗訴判決を言い渡しました。とくに、大阪地裁判決の勝訴

¹ いのちのとりで裁判全国アクションウェブサイト(<https://inochinotoride.org/>)

2024年度広報委員

松尾洋輔（59期、委員長）

溝上絢子（57期、担当副幹事長）

西原和彦（55期）

堀川智子（57期）

浦寛幸（59期）

広瀬元太郎（60期）

柳勝久（61期）

山田寛子（65期）

金星姫（66期）

木場晶子（67期）

田村瞳（67期）

板崎遼（67期）

吉留慧（68期）

高一成（69期）

根本俊太郎（70期）

足立敦史（71期）

村本健司（71期）

河野哲平（71期）

才木晴幹（72期）

中岡さつき（72期）

中西教子（72期）

久井大輝（73期）

山本こずえ（73期）

佐々木崇人（74期）

神澤鈴子（74期）

秦尚樹（74期）

を経験したメンバーのショックは大きく、慰労会ではほぼ全員が泣いていたのを覚えています。



【旗出しのようす】

しかし、泣いてばかりもいられないため、生保大阪弁護団・原告団は、2023年4月15日、最高裁に上告し、全国の仲間たちと協力しながら、裁判闘争を続けてきました。生保大阪弁護団の高裁での敗訴後も、地裁レベルでは勝訴判決が積み重なっていきました。

そのような中、愛知弁護団が、2023年11月30日、名古屋高裁で、引下げの違法のみならず、国家賠償までも認める完全勝訴判決を勝ち取りました。その後も、さらに地裁レベルでの勝訴が続きました。

これまでの戦績は、地裁と高裁を通算して15勝11敗と、原告側が勝ち越しています。

3 最高裁要請行動とは

広義の最高裁への要請行動とは、最高裁判所に対し、公正妥当な判決を書くよう要請するための弁護団・原告団・支援の会の活動の総称です。最高裁西門前（通勤してきた裁判所職員や裁判官が通る門のため）での午前8時頃からのビラ配りや演説に始まり、今回は、午前10時に裁判所書記官との面談を予約して、30分間にわたり、事件の概要や当事者、各地の弁護団の弁護士等の声、署名などを渡す活動をし（狭義の要請行動。17名までしか参加できない）、終わったら、要請行動に参加できなかった参加者に対する報告集会を行うというのが、一連の流れです。

4 ビラ配り&演説（原稿無しにチャレンジ!）

ビラ配りと演説は、午前8時に、西門で開始されました。守衛さんたちは大変親切で、「あまり門の近くだと、身分証を見せる動作がしにくくなるから、少し離れて配ってね」など、優しくアドバイスしてくれました。弁護士によっては、赤信号で立ち止まるところを狙うために、少し離れた横断歩道の前でビラを配る工夫もみられました。演説は、全労連の街宣カーを貸していただき、十分な拡声力で行うことができました。

個人的な話をしますと、私は、街宣（と演説）の経験が乏しく、人生で2回しか経験がありませんでした。しかも、その2回は、自分で作った原稿を見ながらの演説でした。しかし、生保大阪弁護団には街宣の猛者が多く、原稿なしで演説できる弁護士もたくさんおりました。

なので、私は、今回の要請行動では、原稿なしの演説にチャレンジしました。1回目と2回目は途中で言いよどみましたが、3回目はノーミスで演説を終えることができました。何事も、挑戦してみるものだ実感しました。

また、長時間かつ冬場の街宣であったため、休憩（と、最後の報告集会）ができるよう、事務局長の和田信也弁護士が近場の貸会議室を予約しておいてくれたので、非常に助かりました。



【ビラ配りのようす】



【街宣車と演説のようす】

5 狭義の要請行動本番

午前10時になり、最高裁の西門から17名の参加者が入室しました。事前に予約が必要で、17名の人数制限がありました。西門から建物内に入っ

てすぐのところに、細長い部屋があり、一番奥に、担当書記官が座り、手前に、17名分の座席がありました。

与えられた時間は30分だったので、数分単位で、生保大阪弁護団の副団長である小久保弁護士や、当事者や支援者の方々の発言、各地からの参加者の発言などをテンポ良く行っていきました。最後には、最高裁宛の1700名を超える署名を提出しました。

撮影や録音は禁止されており、当事者の発言内容は、担当書記官が詳細にメモするとともに、後日でよいので、原稿を提出するよう求められました。

6 記念撮影と報告集会

要請行動が終わると、小久保弁護士と和田弁護士のみ、補充書を提出するために最高裁の内部に入りました。なお、和田弁護士の話によれば、最高裁の内部は古めかしく、唯一、IT関連の部署のみ、おしゃれなオフィス風だったとのことでした。

2人が戻ってきたあとは、(狭義の)要請行動の参加者が集まって、最高裁の正門前で記念撮影を行いました。

午前11時頃に、報告集会が始まりました。同集会に参加したのは(狭義の)要請行動の参加者と同じだったため、司会の雨田信幸さん(生保違憲訴訟支える大阪の会)が気を利かせて、同要請行動で発言をしなかった人たちに発言の機会を与えてくれました。参加者のみなで、お互いの活動を称え合いました。



【正門前での記念撮影】

7 終わりに

生保大阪弁護団の上告審は、第3小法廷に係属しており、最近、担当裁判官が、なんと宇賀判事であることが判明いたしました。ぜひ、今後にご注目いただければ幸いです。

また、春秋会メーリングリストにおいて、2024年1月30日にお願いたしましたとおり、泉南アスベスト弁護団の先生方の最高裁での闘いに倣

い、復代理人を1000名集める活動や、署名活動もしております。もし、ご興味を持っていただけましたら、弁護士西田陽子宛（TEL：06-6121-2731、nishida@yoko-law.com）までお問合せいただければ幸いです。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。これからも、変わらぬご支援の程よろしくお願いいたします。

写真：田川英信、庄司修、弁護士和田信也

以上

ひと月一島、国内航路全制覇への旅(12)

～香港島・中華人民共和国香港特別行政区～

広瀬元太郎（60期）

「国内航路全制覇への旅」といいながら、いきなりそれに反する島名である。なぜか。2月に行った島がここだけだから、というシンプルな理由である。

コロナ禍が始まってから4年、海外旅行が罪悪であった期間がやっと終わった。人は、こんなにも簡単に移動の自由を放棄するのかと、コロナよりもそっちが怖くなった時期もあったが、大阪の街は、2019年ころのように外国人であふれている。コロナ前が戻ってきた。が、日本人にとって、コロナ前と今は大きく違う。円の価値が（対米ドルで）3割も減価してしまったのだ。そのため、インバウンドはほぼ回復しているが、アウトバウンドはコロナ前の6割程度との話である。ハワイでラーメンを食べたら3000円したとか、家族で普通に夕食を食べたら5万円払わされた等の話を聞く。ただ、マスコミの傾向として、極端な例のみを取り上げるといふ点があるので、平均値としてそれが本当なのかは気になる。市場調査をかねて、4年ぶりの海外島めぐりである。

2月24日、関西空港から香港に向けて出発する。これは、コロナ直前くらいから普及していたと思うが、出国審査は自動化されている。パスポートの写真面をスキャナーに読み取らせ、カメラで顔認証をしてゲートを通過する。今は、パスポートに出国スタンプは押されない（頼むと押してくれるらしい）。

飛行機の乗客の国籍であるが、思ったよりは日本人は多く、かろうじて過半数は超えていると思われる。



4時間ほどのフライトで、香港国際空港に到着する。空港から香港島まではバスが出ている。運賃は、40香港ドルで、768円（以降は、1HKD=19.2円として、円換算する）である。空港から香港島までの距離は、40キロ。梅田から関西空港までの距離の7割ほどである。梅田から関西空港までのバス代が1800円なので、距離あたりでは、香港の方が3分の2くらいである。それほど高くない。マスコミは煽っているだけなのか。

食事はどうなのだろう。少し高めで、グランフロント梅田にありそうな

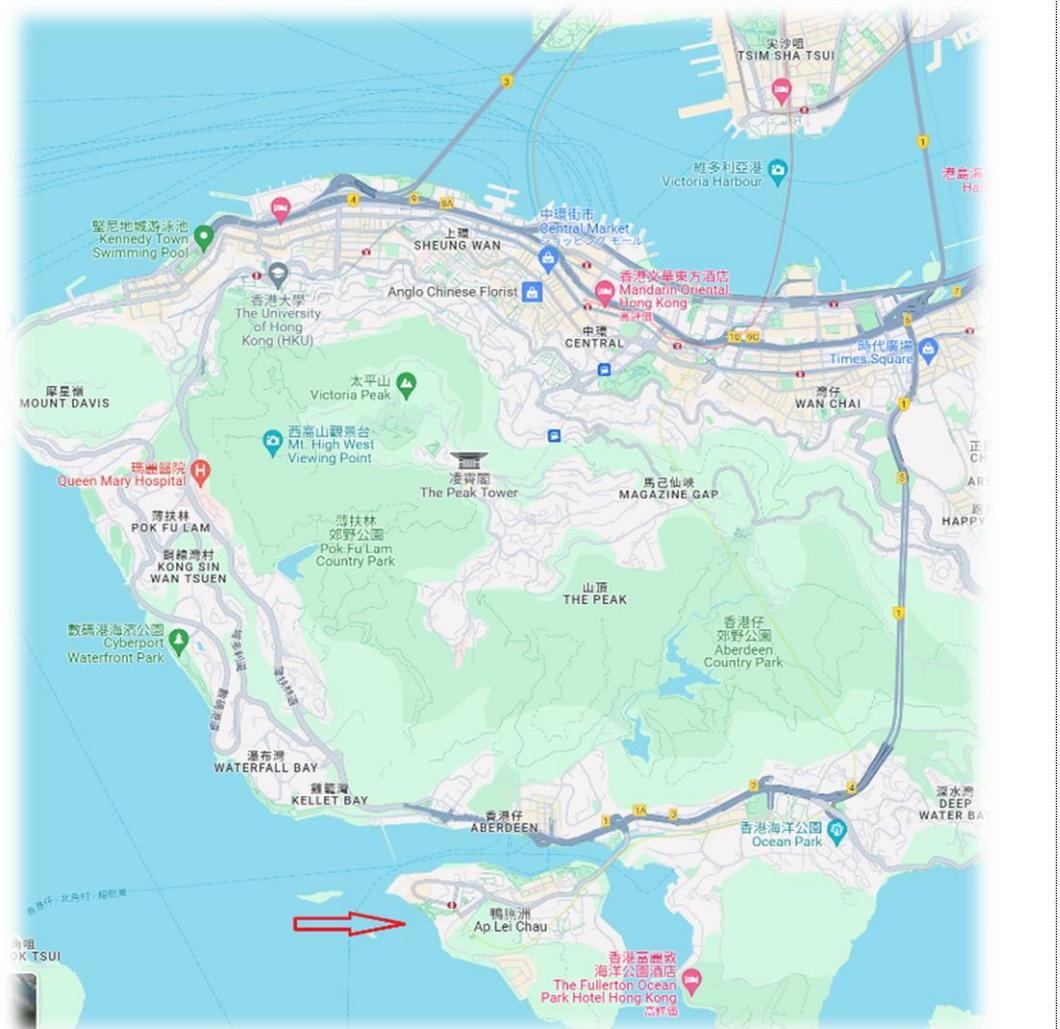


中華料理屋に入ってみた。マーボー豆腐 1881 円、焼飯 2265 円、サントリープレミアムモルツ 1113 円、コカ・コーラ 576 円。焼飯が他の料理に比べて高いような気がするが(たぶん具が豪華)、このくらいの価格なら十分許容範囲ではないかと思う。家族で夕食に行ったら 5 万円はない。この店ではなく少し安めのお粥屋では、吉野家の牛丼並のサイズで、肉入りのお粥が 700 円くらいであった。これも少し高めではある。

なお、これに対し、香港ドルに対し円はそれほど下落していない

のではないかと反論があると考えられる。しかし、香港ドルは米ドルとペッグ制をとっており、おおむね米ドルに連動しているためこれはあたらな

い。島めぐりを始めることにする。香港は、中国大陸の部分(九龍という)とランタオ島、香港島およびその他の島に分かれている。面積的には大陸の部分が一番大きい



積の5倍、人口は733万人である。大阪市の5倍の面積に大阪市の3倍の人口なのだから、大阪に比べてスカスカではないかと思うが、香港にはほとんど平地が無いので、可住地の人口密度は極めて高い。日本で言うところのタワマンが1000棟くらい建っている。

さて、どこに行くか。前回の長崎旅行でも述べたが、旅の楽しさは迷うという所にある。国内に比べて、事前の情報量の少ない海外では、より程度の高い「迷い」が生じるので楽しい。有名スポットではない知らないところに行ってみよう。そこで、適当な路線バスに乗って終点まで行ってみよう。「鴨脰州」との行先を掲げたバスがやってきた（2文字目は、「月へんに利」だが、フォントにないので代替する）。



香港島の北西部から西行のバスに乗ったので、島を反時計回りに回ってどこかに行くバスであろうと推測できるが、鴨脰州など聞いたことがない。バス内のディスプレイに表示される停留所も知らないところばかりで、漢字を羅列しているに過ぎない。バスは、ビルの谷間の九十九折れの道を、エンジンをうならせて登っていく。何個目のバス停のあたりで、はるか下に海が見える。香港のバスは、基本2階建てなので眺めがいい。最近はスマホがあるので、調べまければ「鴨脰州」がどのあたりかで、何があるのかなど

簡単にわかってしまう。便利ではあるが楽しみが減少する。太川陽介とかが出ているバス乗り継ぎ系の番組（ゲーム）も、スマホを使うとゲームが成り立たないので、スマホの使用は禁止されている。幸いにも、電波の状態が悪く、かつ「鴨脰州」などと打ち込むことが困難なため、楽しみが維持されており、良い。

バスは香港島の西端を回り島の南側に入ったようだ、巨大タワマン群が消え失せ、低層住宅が密集しているエリアに入る。肉厚のある木が茂り、浅黒いおっさんが道端に座って談笑している。ここはもう東南アジアなのだ。バスは、狭い海峡を渡り、知らない島に入る。そして、強烈な坂を登る。しばらくすると強烈な下り坂があり、50階建てのタワマンが30棟くらい密集しているエリアに入る。そのタワマン群の小さなショッピングセンターの前で停まる。停車した1秒後にエンジンが切られ、その2秒後にエアコンが止まる。ほかの客も降りていく。ここが「鴨脰州」みたいである。

おそらく、人生で一度きりしか来ないことが確実な「鴨脷州」を歩いてみる
こととする。海に面した公園と巨大タワマン群、なんとなく大阪南港の近くの
ニュータウンに似ているような気がする。日本のニュータウンと同様に住民は
高齢化している。香港の合計特殊出生率は0.77で、日本の1.26よりも激し
く低い。このタワマン群、
今後どうなるのだろうか。



変わった鳥がいたり、妻
が公園で写真を撮りまくっ
ている。このようなバカバ
カしい島めぐりに付き合っ
てもらえることに感謝しな
ければならない。巨大団地
にショッピングセンターが
あるのは日本と同じだが、
食材はパッキングされてお
らず、生々しい匂いが充満
している。肉がむき出して
店頭並び、原形をとどめ
ているアヒルの丸焼きがぶ
ら下がっている。見たこと
のない鮮やかな果物が、そ
の色をより強調させる照明

に照らされてまぶしい。これも、アジアっばい。

ショッピングセンターの一角に不動産屋がある。「Tower 16-F:1588
萬、882呎」等の表示がある。1588萬というのは香港ドル表示で、日本円
なら3億500万円というのは理解できるが、「呎」は何のことか。㎡にして
は広すぎるし。調べてみると、「呎」は、平方フィートの漢字である。フィ
ートの平方など急に言われても換算不能であるが、1フィートは、0.3mなの
で、1平方フィートは0.09㎡である。とすると、この物件は79㎡（広めの
3LDK）で3億500万円するのか。これは、南港とは大違いである。しか
し、この町を歩いている人たちの風貌を見るに、超失礼ながら、とても富裕層
には見えない。ショッピングセンターのテナントも日系のサイゼリヤや吉野家
というチープ系が多い（牛丼の並は700円くらいだったので、日本より少し
は高い）。香港の経済構造はどうなっているのでしょうか。考察が必要であ
る。

マンションの値段が高いとすれば、ホテル代はどうなっているのだろうか。
筆者は、香港島の街の中心から2駅くらい離れた「上環」というエリアのホ
テルに泊まった。決して高級ではないが、まあまあのレベルの35階建てのホ
テルである。日本でいうとドリーミンくらいの感じか。ただし、部屋は狭
く、ベッドを置くとあまり余裕はない。このホテルが、1泊あたり9250円
であった。二人でこの値段だから、一人あたり4600円で、東京や大阪に比
べて若干安いと思われる。マンションにおける南港のニュータウンとの価格差

を考えると、一泊5万円とかいわれても仕方ないような気がするが、ミドルレンジのホテルはそれほど高くないようだ。

鴨惺州を去って、適当なバスに乗って別の場所に行く。おじさんが、筆者らのことを「間違っ変な場所に来てしまった外国人」と認定し、本来のあるべき場所に戻る場所を親切に教えてくれる。「旅の楽しさを味わうために、わざと迷いたいのです。だから、行先の分からないバスに乗ろうとしています。ご親切ありがたいですが、結構です」と説明する英語力がないのがもどかしい。



バスに乗りまくって発見したのだが、香港の路線バスの運賃体系は特異である。このような情報が何の役に立つか不明であるが、筆者と同じようなことをしたい人が稀にいるかもしれないので書いておく。香港のバスは、乗車時に

運賃を払うしくみであるが、均一料金でも、乗った区間で運賃が決まるのではなく、バスの路線ごとに運賃が決まっている。それも、一定ではなく、当該バスが終点に近づくほど乗車時に払う金額が減少するしくみとなっている。抽象的に説明しても何のことかわからないので具体例をあげると、梅田から千里中央に行くバスは、梅田から乗ると400円であるが、新大阪で降りても千里中央で降りても400円である。同じバスに新大阪から乗ると300円、江坂から乗ると200円というように、乗車駅が終点に近づくほど安くなるが、どこで降りても同じ値段である。江坂から乗ると、緑地公園で降りても、千里中央で降りても200円である。

では梅田から新大阪に行きたい人はどうするのかというと、新大阪行のバスにのればいい。新大阪行のバスは、乗車時に200円払えば新大阪に行ける。ただし、中津で降りても200円である。

つまり、近くに行くときに、終点が遠いバスに乗ると損をするということである。筆者も最初は、これにやられた。なお香港のバスは安く、適切な乗り方をすれば、梅田から新大阪までは100円くらいである。

香港の物価について総括すると、公共交通機関は円安下においても日本よりはかなり安いといえる。ホテルは質を考えると日本と同等程度、食事は少し高めだが許容範囲、マンションは信じられないほど高い。「鴨惺州」で3億円であったが、香港島中心部には、220㎡で31億円の物件の広告もあった。旅行でマンションは買わないので、旅行において、物価高の影響はないという結論を得られた。マスコミの、極端な例を出して煽る傾向は証明された。

今回の旅行は、飛行機が往復で一人5万円、ホテルは2泊で2万円（一人あたりにすると1万円）食事は合計しても一人1万円程度なので、諸々の経費をいれても8万円程度である。

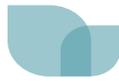
船の話を書かないといけない。九龍と香港島の間には海峡があり（ビクトリアハーバーと呼ぶ）そこには、3本の道路用海底トンネルと3本の鉄道海底トンネルが通っているが、船も運行されている。スターフェリーと呼ばれ、香港観光では外せないものとなっている。相当年季の入った船が、両岸を10分弱で結んでいる。船は2階建てで、Upper Deck と Lower Deck に分かれているが、運賃は上が100円、下が80円で、マンションが3億円するのと比較すると微々たる差である。

スターフェリーに乗るのは夜がいい。兩岸の華やかなネオンが海に反射し夜景が倍増してみえる。1842年、アヘン戦争でイギリス領になって以来、この島の支配者は度々変わった（日本が実効支配していた時期もある）が、繁栄は続いている。そういえば、筆者の初めての海外旅行先は香港であった。30年以上前、当時日本はバブルに湧いており、経済で世界を制覇するかもと錯覚するぐらいの勢いがあった。香港の夜景を構成する華やかなネオンの多くは日本企業のものであったが、2024年の今、多くは中国系の企業のものに変わった。発見できた日系企業は、パナソニックとイオンとダイキン工業の3社であった。少し寂しくはある。どうでもいい話ではあるが、筆者はダイキン工業の株を短期売買して勝負を挑んでいるが、相性が悪く負け越している。ここで会ったか！という気分だ。株と言えば、香港訪問出発日の2日前、日経平均株価がバブル時の最高値を超えた。34年ぶりとのことで、最初に香港に来てから今回までの期間にほぼ匹敵する。今後の日本経済の復活を祈りたい。

最終回は海外に飛び出してしまった島めぐりであるが、ちょうどこれで年度替わりとなる。筆者自身、島めぐりは続けていこうと思うが、海外にも行くことができるようになった今、海外ローカル線紀行も復活させたい気分もある。よって、島に限定した島めぐり記事はここでいったん中締めとしたい。来年度は、島に限定しない記事を書いていきたいと考えている。

完





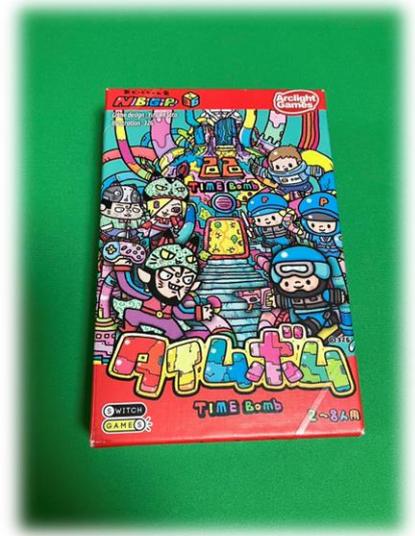
今月のボードゲーム

ボマー団は誰だ?? - タイムボム -

板崎 遼 (67期)

ボードゲームにはいくつかジャンルというかゲームの基本となるシステムがある。代表的なものでいうと、ブラフ・タイル配置・拡大再生産・ワーカールイスメントなどであるが、タイムボムはその中でも「正体隠匿」というシステムのゲームだ。いわゆる人狼ゲームのようなシステムで、2つの陣営に分かれて陣営同士で戦うが、誰がどちらの陣営なのかはわからない、という基本システムを持つゲームである。

もともとタイムボムという名前のおり、タイムボム=時限爆弾を爆発させたいテロリストチームと、テロリストを摘発するSWATチームに分かれるのがオリジナルらしいが、日本に輸入される際にちょっと刺激的過ぎるということで、爆発すると時間を巻き戻してしまうタイムボムという爆弾を爆発させたいボマー団と、時間の巻き戻しをふせぐタイムポリスという2陣営(第3陣営としてスパイをいれることも可)に分かれることになった。どれだけ刺激が緩和されたのかわからないものの、イラストも326氏を採用したかわいらしい絵柄になっている。

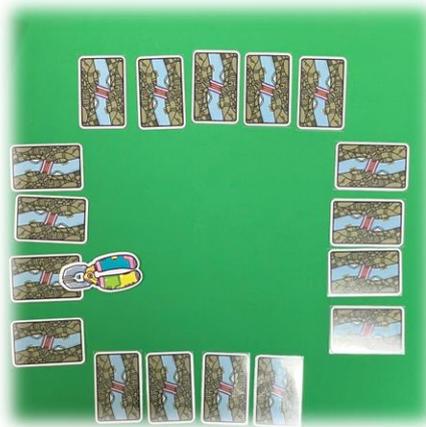


まず役割カードでそれぞれがボマー団かタイムポリスかに分かれた後、各人に5枚ずつ導線カードが配られる。当然、自分の役割を除いて、誰がボマー団で誰がタイムポリスかはわからない。4人プレイの場合は合計20枚の導線カードが配られることになるが、その内訳はBOOMカード1枚、解除カード4枚(プレイ人数に等しい数)、しーんカード15枚である。タイムポリスは解

除カードを全部当てれば勝ち、ボマー団は BOOM カードを当てるか規定回数までに解除カードを全部当てられなければ勝ちとなる。



各人に導線カードが配られたら、自分に配られた導線カードを確認し、自分でもわからないようにランダムに手もとに並べる。その後、開始プレイヤーが切断する導線を選んでニッパーをおき、ニッパーが置かれた導線カードを表にしていく。次に切る導線を選ぶのは直近でニッパーを置かれた人になる。



こんな感じで切りたい導線の前にニッパーをおいて、導線を切っていく

解除が出るとタイムポリスの勝利に一步前進！





当然 BOOM カードが出てしまうとタイムポリスの負け

この過程で、どの導線カードを選ぶかについて、正体隠匿ゲーム特有の心理戦が行われる。要するに、ボマー団は、何とか BOOM カードを切らせようと、本当は BOOM カードを持っているのに「解除が2枚、BOOM は持っていない」などと嘘をついたり、解除を切られたくないから「解除は0、BOOM があるから切らないで」と嘘をついたりする。このやりとりを踏まえながら、誰がボマー団なのか、どの導線を切るべきかを考えていくのだ。

この種のゲームは、嘘をつくのがうまくないとすぐに嘘が破綻してしまうことも多い。人狼ゲームで早々に矛盾点を突かれてすぐに吊られた経験のある読者も多いと思う。しかし、タイムボムのいいところは、人数分のカードが表向きになった段階で裏向きの導線カードをシャッフルして配りなおす、この配りなおしを導入した点だ。このため、1ターン目では各人5枚の導線カードだったが、2ターン目では4枚、3ターン目では3枚となり、4ターン目（各人2枚ずつ）が終わった段階でゲーム終了である。



ターンが進むごとにどんどん配りなおしをして枚数が減っていき、最後は⇒のように各人2枚ずつまで減っていく。

この配りなおしルールのおかげで、手もとのカードを全部切られたのでやる事がなくなったという事態が避けられるのみならず、「さっきまで BOOM

カード持ってたけど、今は持っていない」など進行に応じた嘘をつくことが可能になり、嘘が破綻しにくくなって、嘘つきハードルが一気に下がる。

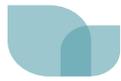
また、「ボマー団は誰だ？」とはいうものの、ゲームの目的はボマー団を当てることではない。別にボマー団であることがバレても、人狼ゲームのようにそこでリタイアではなく、最後までゲームに参加できるのだ。普通ボマー団だとばれてしまうとニッパーが回ってくることはないが、ボマー団の手もとに解除があればタイムポリスはその解除を切らなければ勝てない、ただその解除を切りに行くとボマー団にニッパーが回ってしまう→ボマー団がBOOMを狙ってくる、こういうジレンマも楽しめる。

最終ターンまでいくと、1人あたり2枚ずつしかないので、ボマー団がカミングアウトした上で、BOOMカードを狙って切りに行くなど、いろいろな動きができる。最後の最後までうまく嘘についてタイムポリスだと信頼させた上で、回ってきたニッパーでBOOMカードを当てたりするともものすごくテンションが上がる。

一応10歳以上対象となっているが、我が家では4歳の息子も十分にルールを理解し、年末年始には同い年の従兄弟と一緒に盛り上がっている。ただ、実際に1番盛り上がっているのは、26歳児から36歳児までの大人たちだけで、本気の心理戦をやっているときかも知れない。大人も本気で楽しめるゲームである。

なお、本ゲームは3年ほど前にインスタで流行ったことがあり、その際には転売に次ぐ転売、偽物が多数販売されるなど大変な時期もあったが、2024年現在においてはそのような過度な需要は落ち着き、定価の1800円で購入が可能である。人狼ゲームに関心のある方、タイムボムもみんなで盛り上がること必至なので、ぜひご購入を検討されたい。

以上



「プリズン・サークル」

上映会、トークショーのご報告

研修委員会 清水智也（75期）

令和6年2月10日（土）に、「おおさか人権フェスタ2024」にて、「プリズン・サークル」上映会、坂上香監督と金沢泰裕牧師とのトークショーを行いました。当日の来場者数は128名で、春秋会の先生方をはじめとする法曹関係者のみならず、多くの一般市民の方々に参加いただき、大盛況でした。

この映画は対話を基本に犯罪の原因を探り、更正を促すTCという教育プログラムを通じて4人の青年が社会復帰に向けてどのように更正していくのかが見どころの一つです。ご来場いただいた皆さまの中には、映画の中で青年たちが話す数々のエピソードや心情を聞いて、涙を流して泣かれている方もいらっしゃいました。私自身、この映画を見た際には4人の青年たちの話を聞いて、彼らを「加害者」という言葉だけでまとめてしまってよいのだろうか、罪を犯さないようにするにはどうしていくべきか、加害者が社会復帰をするために私達には何ができるのだろうか、など様々なことを考えました。

ご来場いただいた方々からは「本当に良い映画でした。」、「とても感動した。」、「これからも機会があれば拝見したいです。」など大変嬉しい感想を多くいただきました。

上映会後には、本映画の映画監督である坂上香監督と神戸刑務所で教誨師を務め、薬物乱用防止にも取り組む金沢泰裕牧師をゲストに映画の裏話やTCのような教育プログラムが今後日本の刑事収容施設に広まっていくにはどうすればよいかなどお話を伺いました。坂上監督からは、この映画では青年たちの表情、仕草や声などをできるだけ視聴者に見て、聞いてもらうことを大切にしたいという貴重な裏話をお聞きすることができました。金沢牧師も薬物を止められる人は顔を見ればわかるとの発言もあり、登場する青年本人たちの声でエピソードが語られ、その表情や仕草が映されていたことがこの映画が多くの方の心に響く内容になっているのかもしれない。また、トークショー中には本映画のカメラマンである南幸男さんもサプライズで登場いただき、撮影の際の裏話をお話いただきました。

最後になりましたが、当日ご来場いただきました皆さま、誠にありがとうございました。今回の上映会をきっかけに加害者の更生、社会復帰等について考えていただけると幸いです。「プリズン・サークル」の自主上映会は、全国各地で行われておりますので、今回見に行けなかったという先生方は、上映会に参加の上、ぜひ一度ご覧ください。



劇団四季「バケモノの子」鑑賞会報告

親睦委員会 藤澤諒祐（74期）

2月10日に開催されました劇団四季企画について、ご報告いたします。



今回の企画では、大阪四季劇場にて、「バケモノの子」を鑑賞しました。弁護士の先生方やそのご家族の合計20名と一緒に鑑賞させていただきました。



ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。

三連休の初日でしたが、充実した休日をお過ごしいただけたのであれば、嬉しく思います。

劇団四季の舞台を観るのは今回が初めてなのですが、楽しみなあまり開演の1時間以上前に会場に到着してしまいました。今回の「バケモノの子」、事前に映画を鑑賞していたのですが、舞台ではどのように表現されるのかとワクワクしていました。特に今回は、劇団四季史上最大規模の新作オリジナルミュージカルとのことで、非常に期待が膨らんでおりました。

期待し過ぎるあまり、実際に鑑賞してみると思ったほど良くなかったなんてことにならないかと若干の心配もあったのですが、全然そんなことはなく、期待を裏切らない素晴らしいミュージカルでした。演出は圧巻であり、舞台装置や衣装、音楽、どれも工夫が散りばめられており、気付いたら作品の世界観に引き込まれていました。キャストさんの演技も登場人物の感情を上手に表しており、特に感情のぶつかり合う熱演にはただただ圧倒され、心を揺さぶられました。

舞台は2幕構成になっていたのですが、1幕では、人間の子ともである九太とバケモノである熊徹の掛け合いが子どもの笑いを誘っており、2幕では、人間の心の闇にフォーカスしたやや大人向けの舞台となっており、子供も大人も楽しめる演劇になっていました。

とても見応えのある舞台で、最初から最後まで楽しむことができました。



本日のキャスト Today's Cast

原作	細田 守(映画『ウモノ子』)	熊徹	韓 盛治	蓮/九太(青年)	貞松 響		
脚本・歌詞	高橋 知伽江	演出	青木 豪	猪王山 伊藤潤一郎	一郎彦(青年)	笠松 哲朗	
作曲・編曲	富貴 晴美	音楽監督	鎮守 めぐみ	多々良 近藤 聡明	百秋坊	安東 翼	
振付	萩原 隆匡	装置デザイン	石塚BLANK R&D	二郎丸(青年)	筒井 圭児	宗師	青山 弥生
衣裳・ヘアメイク・特殊メイクデザイン	ババットデザイン・ディレクション	トビー・オリエ	蓮/九太(少年)	馬淵 秀太	一郎彦(少年)	永田 英士	
照明デザイン	赤崎 浩二	映像	松澤 延拓	二郎丸(少年)	仁科 絃京		
擬闘	栗原 直樹	マジック監修	リママジックRYOTA				
音響デザイン	千葉 治朗	演出補	玉城 任	男性アンサンブル		女性アンサンブル	
技術監督	笠原 俊典	子役指導	遠藤 剛	蓮の父	梅津 亮	猪王山の妻	小島 由夏
			渡邊 万希子	山口 泰伸	丹下 博喜	坂口 珠乃	渡邊 友紀
			稲葉 愛夢	菊地 智弘	川口 雄二	さかい こみ	佳田 菜那
				片山 怜也	大脇 史門	森田江里佳	田原 沙綾
				勝原 亮太	新庄 真一	若松 小百合	

参加者それぞれが余韻に浸りつつ、今回のイベントは終了となりました。
私にとっては初めての劇団四季でしたが、すごく良かったです。今後もぜひ劇団四季の鑑賞イベントを開催できれば良いですね。

親睦委員会は、他にも様々なイベントを企画していきますので、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

以上、劇団四季企画についてのご報告でした。

執行部の一員として、2回目の原稿執筆が回ってきました。

私は、研修委員会の担当をしているのですが、各研修の報告については、担当の方が原稿を書いてくださっていますし、何を書こうかかなり迷いました。

ふと、春秋会のニュースレターでは、子育てに関する記事も募集しているというのが目に留まりましたので、今回は、最近私が子ども達（小学生の娘2人）と一緒に掛けて楽しかった場所をご紹介しますと思います。

1 子ども本の森

弁護士会館の近くにあるため、よく前を通るのですが、ずっと行っていなかった子ども本の森に、最近初めて行きました。外から見ると、中は広く、置いてある本も、子ども向けの本ばかりかと思いきや、動物に関する本、芸術に関する本、子育てに関する本、学校やいじめに関する本、世界の国々や文化を紹介する本、漫画本など、多岐にわたっており、大人も楽しめる施設でした。予約制で、滞在時間が決められているのであまりゆっくりできないのが少し残念ですが、行きやすい場所にありますし、おすすめです。

2 テントウムシパーク

河内長野市にある施設で、遠いですが、子どもの友達家族に誘われて、最近初めて行きました。トランポリンや、テニスコート、卓球台、バスケットボールやバレーボールのコート等があり、色んなスポーツを楽しむことができます。週末は混雑するため、午前中の利用がおすすめです。利用者には、ドリンクバーがついており、施設の色んなところでドリンクを入れることができます。カラオケルームもたくさんあり、疲れたら、ドリンクを持ち込んで、カラオケルームでカラオケを楽しんだり、漫画も置いてあり、漫画を読んで休憩もできます。私は、午前中で疲れましたが、体力のある人は一日滞在しても楽しむことができそうです。

3 エスコヤマ「未来製作所」

神戸に住む事務員さんに教えてもらったのですが、兵庫県三田市にある洋菓子店、エスコヤマに、小学生以下の子供だけが入ることのできるお店があります。窓もないため、中の様子は分かりませんが、店員さんが丁寧に対応してくれるみたいです。子ども達には新鮮だったようで、親にも、洋菓子を買ってきてくれました。なお、未来製作所の隣には、エスコヤマが運営するカフェがあり、親は隣でお茶をしながら待ちました

帰りに寄った、神戸の異人館にあるトリックアート館も、子ども達には面白かったようです。

子どもが小学生になると、行動範囲も広がり、親子で楽しむ機会も増えたように感じます。他の春秋会員の方々が、子連れでどんなどころに出かけているかも知る機会があれば、うれしいです。



ニュースレターの原稿を募集します！

広報委員会としましては、このニュースレターを双方向的なものにしたいと思っており、会員の皆様の原稿を大募集いたします。

是非、ご投稿いただきますようお願い申し上げます。

- 1 今までのニュースレター・会報の記事に対するご意見
- 2 子育て体験談
- 3 変わった国に行った旅行記
- 4 ペットや趣味の紹介
- 5 感動した本、漫画、ゲームの紹介

下記にお送りいただければ、ニュースレターに掲載させていただきます。（もちろん、一定の審査はさせていただきます。）

広報委員会委員長 松尾洋輔 y-matsuo@dojima.gr.jp